

# 「我が国の計測分析プラットフォームを どのように構築すべきか」

**日時：平成28年1月20日(水曜日) 場所：日本学術会議講堂（東京、乃木坂）**

最先端の分析技術および機器開発を進めることは、我が国の独創的なものづくりと先端科学研究開発に重要です。この講演会では、計測分析技術の持つポテンシャルを更に高めていく上で、産学官のプラットフォームをどのように構築すべきかについてこれまでの活動を紹介し、議論します。学生、教職員、企業の開発者などの積極的な参加を期待しております。**（12時半より受付開始）（参加は無料です）**

**主催：日本学術会議・化学委員会・分析化学分科会、日本学術振興会研究開発専門委員会「イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォーム戦略の構築」、日本分析化学会、日本分析機器工業会**  
**後援：日本化学会、科学技術振興機構、産総研COMS-NANO**

## 講演内容（講演者敬称略）

13:00-13:25

はじめに 「産学官による計測分析プラットフォーム構築に向けて」  
一村信吾：名古屋大学・教授・イノベーション戦略室長  
（日本学術会議 化学委員会・分析化学分科会副委員長）

13:25-13:45

「計測分析プラットフォーム構築の必要性と期待—アカデミアおよび学会の立場から—」  
鈴木孝治：慶應義塾大学理工学部・教授  
（日本学術会議 化学委員会・分析化学分科会委員長、日本分析化学会会長）

13:45-14:20

「計測分析プラットフォーム構築の必要性と期待—産業界の立場から—」  
栗原権右衛門：日本電子株式会社代表取締役社長  
（分析機器工業会会長）

14:20-14:55

「計測分析プラットフォーム構築の必要性と期待—政策立案の立場から—」  
佐藤了平：大阪大学名誉教授/特任教授  
（文科省 先端計測分析技術・システム開発委員会主査）

## 【15:15-16:15 学振研究開発専門委員会 中間報告】

15:15-15:30

活動報告 1  
「ソフトウェアプラットフォームの構築に向けて」  
安永卓生：九州工業大学教授  
（学振研究開発専門委員会 共通基盤（ソフトウェア）WG主査）

15:30-15:45

活動報告 2  
「ハードウェアプラットフォームの構築に向けて」  
藤田大介：物質材料研究機構 先端的共通技術部門・部門長  
（学振研究開発専門委員会 共通基盤（ハードウェア）WG主査）

15:45-16:00

活動報告 3  
「ソリューションプラットフォームの構築に向けて」  
柳内克明：TDKテクニカルセンター 製品解析ソリューションUnitリーダー  
（学振研究開発専門委員会 ソリューションWG主査）

16:00-16:15

活動報告 4  
「標準化の視点で考えるプラットフォーム構築」

永富隆清：（株）旭化成 基盤技術研究所 主幹研究員  
開発専門委員会 標準化WG主査代理）

（学振研究

16:15-16:55 総合討論

16:55-17:00

終わりに 「計測分析プラットフォームの重要性」  
尾嶋正治：東京大学名誉教授  
（日本学術会議 化学委員会・分析化学分科会副委員長）

会場（東京都港区六本木7丁目22-34）は、東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口より徒歩2分

※ 次のアドレスでご確認ください。<http://www.scj.go.jp/ja/other/info.html>

連絡先： 慶應義塾大学理工学部応用化学科・教授 鈴木孝治

E-Mail: [suzuki@aplc.keio.ac.jp](mailto:suzuki@aplc.keio.ac.jp) Fax:045-566-1568



## 日本学術会議講堂(1階)

(アクセス)東京メトロ千代田線

「乃木坂」駅5出口すぐそば(徒歩2分)

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34

TEL:03-3403-3793(代表)

<http://www.scj.go.jp/ja/other/info.html>